教　え　子　を　再　び　戦　場　に　送　る　な　！

豊中でも広がる格差
父母負担軽減など 教育条件整備こそ急務”

昨年11月の対市交渉で、学校現場の実感として、給食費の滞納者や学校徴収金の未納が増えてきているのではないかと指摘しました。しかし、教育委員会として未納の実態把握はしていません。それどころか、就学援助に関わる予算を削っています。

先の文部科学省がおこなった給食費の滞納調査は「保護者のモラル」が一面的に強調されていましたが、働いても生活が苦しい＝ワーキングプアが増えています。格差と貧困がいわれています。格差が豊中でも広がっています。

削られた就学援助関係費

学用品・校外活動費

10670円（平成15年）
12610円（平成14年）

修学旅行費

小学校上限２万円
中学校上限３万６千円
（平成15年度から）
実費支給（平成14年度）

林間・臨海学舎

小学　３４７０円
中学　５８４０円
（平成11年度まで6300円）

卒業アルバム代

廃止（平成15年度）
1500円（平成14年度）
3000円（平成12年度）
10000円（小学校　平成11年度）
8500円（中学校）

全教

２００７年２月２１日
NO、３８７

とよなか

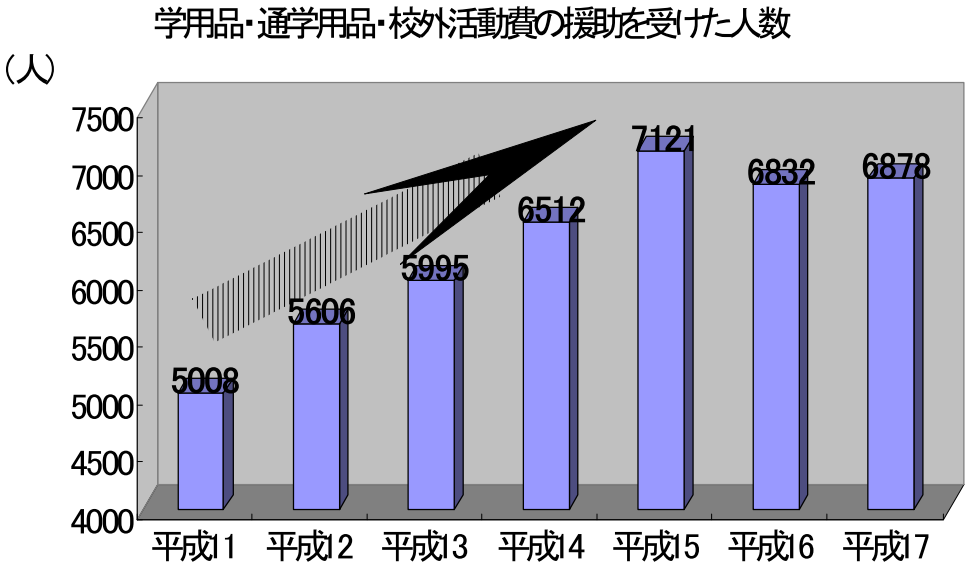
全教豊中教職員組合

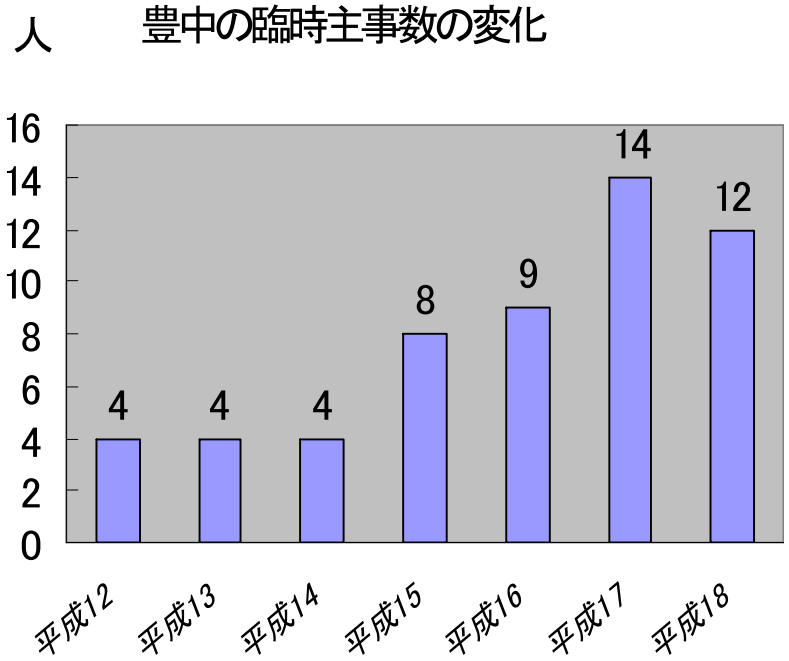
〒561―0874
豊中市長興寺南3－5－2
TEL（06）6865－3190　FAX（06）6865-3191
Eメール　zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp
Webページ
http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/

増える豊中の要保護・就学援助

要保護・就学援助率約23％

15年度に生活保護・就学援助の認定基準をきつくしたため、16年度にはいったん減少しています。それでも、17年度で市内7千名近い児童・生徒が援助を受けています。





臨時主事がここ数年急増していることについて、市教委は就学援助加配校（事務職員の複数配置校）が増えているからと説明しています。

事務職員の就学援助加配校

就学援助率が25％以上かつ100人以上いる学校に加配をつけることになっています。

日本で・世界で

あまり報道されていない情報

イラク派兵自衛隊員 2倍にのぼる自殺率

イラクから帰還した自衛隊員の自殺が7名になっています。自衛隊員全体の自殺率に比べ、派兵隊員の自殺は「2倍ぐらい」としています。自殺ばかりでなく、派兵された隊員の自殺未遂やうつ病、職場への不適応も増えているといわれています。

しかし、政府は実態を隠し、公表をしようとしていません。政府は自殺の原因をイラク派兵と無関係を強調していますが、ここに来て、明らかになってきた"戦場"イラクでの活動が精神を蝕んだとも言えます。

アメリカでもイラク帰還兵の3割が精神疾患の症状を訴えるなど「大義なきイラク侵略戦争」症候群は深刻な問題となってい

ま

評価・育成システム

評価が公平に客観にできるのか？ 賃金リンクはもってのほか

・「管理職がこんなにひどい！」
「評価(育成シート) がこんなことに！」

システムの杜撰さの 実態をお寄せください。

昨年11月の対市交渉で、評価育成システムの賃金リンクの問題点や評価者の管理職の資質の問題を指摘しました。

この2月・3月と評価や開示面談が行われていくことになります。

全教豊中では、評価育成システムの「黒書づくり」をすすめていきます。

評価者である管理職の問題点や恣意的な評価など、この評価システムの問題点を具体的に集約していきます。

昨年までも、開示面談で育成シートを見せてほしいと求めると何も書いていないといったことや評価の根拠を尋ねるときちんと答えることができないといったことがありました。

2・23豊能地域総行動・決起集会

日時　2月23日（金）
午後6時30分～

場所　福祉会館

内容
①豊能地域の労働組合の活動報告
②07年春闘の情勢と課題

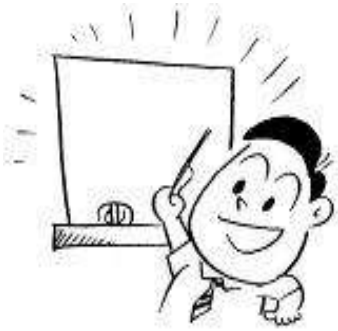
豊中の障害児教育

発達と集団の保障を追求しつづけて

全教豊中・障害児学級　者会

おわりに

近年、文部科学省は、個別指導計画ということを盛んに言い、「特別支援教育」においては、個別の対応や対症療法的、プログラム的な指導内容が目立ちます。ここでは障害特性による弱い面が子どもの教育的ニーズとしてとらえられ、子どもをまるごととらえる人格形成の視点や子ども集団での学び、発達の視点が軽視されています。



一方、「原学級方式」においては、「健常児とともに」ということに重きがおかれすぎ、障害児同士の集団の学びと発達の視点がほとんどありません。

長年「原学級方式」のもとで、障害児自身の発達が十分に保障されないできた苦い経験をもつ私たちには、「原学級方式」も「特別支援教育」も、発達や障害児の集団の保障を軽視しているという点では同じもののように思えます。

豊中の小中学校の障害児学級で、障害児の発達課題に合った取り組みや小集団を組んでの取りくみが少しずつ行われはじめ、そのなかで、子どもの発達や子ども同士のかかわりを大切にした実践が、子どもたちの笑顔を引き出し、発達をしている事実を見るとき、

な集団の保障と、発達の視点で子どもを　えること、また、人格を育てるという視点での障害児教育が、いかに大切なものであるのかをあらためて　じます。

昨年　2月に　で　された「障害者　約」の教育にかんする　の中で、ンク　ーシ　教育が　され、その　の場で文部科学省が「日　でも　ンク　ーシ　教育　の　を　る」と発言したという　もきます。

近よく　く言　に〝ンク　ー　ン〟や〝　ンクーシ〟というのがありますが、〝　ンク　ー　ン〟は「　」と　され、〝　クスク　ー　ン〟（　）という言　の対の　で、　や　、障害などを理　に　会的に　されない　、そういう　会をどうつくるかという　の　全体を指します。

その教育分　での　を「ンク　ーシ　教育」とびます。したがって、常学級で学んでいても、そこでの学　内容がわからなかったり　場所が保障されなかったりすれ　、それは、クスク　ー　ン（　）されていることになります。

「場」に　定されず、障害児学校や障害児学級もめて、その子どもの発達や　場所が保障されいきいき学　ることが、　の　ンク　ーシ　教育と言えるのです。

（おわり）